

# ステージラボ岡山セッション 募集要領

ステージラボは、地域の文化・芸術に携わる公共ホール・劇場等並びに地方公共団体の職員の方々を対象とした研修プログラムです。少人数のゼミ形式によるセミナー、グループ討論、ワークショップなど双方向の研修で、地域における創造的な表現活動の環境づくりに取り組む人材の育成と、相互交流の促進を目指して実施します。

## ■ 開催概要

日 程：2024年2月6日（火）～2月9日（金）[4日間]

会 場：岡山芸術創造劇場 ハレノワ（岡山市北区表町3-11-50）

開講コース：①ホール入門コース、②自主事業コース

定 員：各コース20名程度

参加費：研修参加は無料 ※交通、宿泊、滞在中の食事はご自身で手配、費用負担いただきます。

開催体制：主催／（一財）地域創造 共催／（公財）岡山文化芸術創造、岡山市 後援／岡山県

## ①ホール入門コース

コーディネーター：多田 淳之介（演出家、東京デスロック主宰）

入門コースでは、さまざまな状況の地域から集まった参加者たちで、まずはご自身の状況や考え、悩みをシェアするところから始めます。演劇、ダンス、音楽のワークショップやレクチャーを体験してもらい、参加者同士で意見交換をしながら、今ホールが「やらなくてはいけないこと」「できること」「やりたいこと」をテーマに、今後のご自身の所属する地域やホールの活動を考える上での多様な視座やヒントを得るための4日間のプログラムです。

[対象となる職員の目安]

公立文化施設（ホール・劇場等）で企画・運営に携わる職員（指定管理者である民間事業者の職員も含む）および地域の文化・芸術に携わる地方公共団体職員で、公共ホール・劇場（開館準備のための組織を含む）において業務経験年数1年半未満（開館準備のための組織は年数不問）の方。

## ②自主事業コース

コーディネーター：セレノグラフィカ [隅地 茉歩（振付家、ダンサー） 阿比留 修一（ダンサー）]

視覚情報に偏りがちな日々の中で、身体感覚に着目することはどんな気づきをもたらしてくれるのでしょうか。アートの生まれる現場に立ち会おうとする時、「見る目」も「語る言葉」も助けになりますが、それを生んでいるのは他でもなく「身体」です。もとより企画制作運営は大いに創造的な仕事。現場勘を磨くことに直結する実演と座学の4日間を満喫し、創造脳と創造身体を携えて、皆さんの町と劇場のこれからを描いていきましょう。

[対象となる職員の目安]

公立文化施設（ホール・劇場等）で企画・運営に携わる職員（指定管理者である民間事業者の職員も含む）および地域の文化・芸術に携わる地方公共団体職員で、自主企画による事業を実施している公共ホール・劇場において業務経験年数が2～3年程度の方。

## ■ 申込方法

当財団ウェブサイト「研修事業」→「ステージラボ」(<https://www.jafra.or.jp/project/training/01.html>)から、①参加申込書、②アンケート回答票 をダウンロードし、必要事項をご記入のうえ、メール（宛先：[kensyu@jafra.or.jp](mailto:kensyu@jafra.or.jp)）でお申し込みください。

※民間事業者の場合は③副申書が別途必要

※申込書の受信連絡は行いません。確認が必要な場合は、お問合わせいただくか、「開封確認」を設定してください。

**申込締切：11月24日（金）必着**

### 【参加者の決定】

アンケート内容、応募状況などを考慮のうえ（アンケート重視）、参加コースと参加の可否の調整を行い、2023年12月中旬頃に、申込者あて文書によりご連絡致します。

お問合せ：（一財）地域創造 芸術環境部 研修担当 TEL03-5573-4068 E-mail [kensyu@jafra.or.jp](mailto:kensyu@jafra.or.jp)

# コーディネーターからのメッセージ・プロフィール

## ①ホール入門コース

コーディネーター：多田 淳之介（演出家、東京デスロック主宰）

1976年生まれ。演出家。東京デスロック主宰。古典から現代戯曲、ダンス、パフォーマンス作品まで幅広く手がけ、現代社会に於ける当事者性をアクチュアルに問い続ける。公共劇場の芸術監督や自治体のアートディレクター、フェスティバルディレクターなどを歴任し、国際・教育・地域を活動の軸に国際交流や地域や学校でのアートを活用したプログラムを数多く手掛ける。日韓合作『ガモメカルメギ』にて韓国の第50回東亜演劇賞演出賞を外国人演出家として初受賞。東京芸術祭共同ディレクター。女子美術大学、四国学院大学非常勤講師。シアターねこカンパニーアートディレクター。



©平岩淳

日本では残念ながら芸術というと一部の人の嗜好品だと思われがちですが、世界中の多くの国で芸術は人々が生きていくために必要なものとして大切にされています。これまでもこれからも人類の歴史は芸術と共にあります。芸術なんてなくても困らないと言っている場合ではありません。教育課程に芸術による表現力や想像力、自己肯定感や他者理解を培う過程がないために、芸術がなかったために、こんなにも大人も子供も困っている国はないでしょう。公共とは公的な資金で運営されていることではなく、社会全体が関わることを言います。公共ホールは芸術愛好家のためだけの場所ではなく社会全体のための場所です。芸術ですらお金や数字でしか評価されない日本で、いかに社会全体と関わる公共ホールとして活動していくか。その可能性や実践例、劇場や芸術に携わることの素晴らしさや、楽しさを共有し、ご自身の仕事への誇りや自信に変えてそれぞれの地域に帰っていただけたら嬉しいです。

## ②自主事業コース

コーディネーター：セレノグラフィカ [隅地 茉歩（振付家、ダンサー） 阿比留 修一（ダンサー）]

代表の隅地茉歩（同志社大学大学院文学研究科修了）と阿比留修一（近畿大学文芸学部芸術学科演劇芸能専攻卒業）によって1997年に結成。デュエット作品の創作を基軸に方法論の確立と解体を続行し、隅地のTOYOTA CHOREOGRAPHY AWARD2005「次代を担う振付家賞」（グランプリ）受賞後は、国内外に作品発表の場を広げる。2007年、公共ホール現代ダンス活性化事業の登録アーティストとなったことをきっかけとして、全国各地でのアウトリーチ活動や市民参加作品創作にも多数取り組み、各地の劇場やNPO等と協働。実演以外にも、大学での講義や冊子の刊行など、広範に身体表現芸術の普及に務めている。



photo : Ai Hirano

「頑張ってください」と励ますのをやめました。そう言われた瞬間に、身体がこわばり始めるからです。すると、思考も硬直し始めます。企画をもむとはよく言ったもので、身体も身体でなくても、弾力こそが命。アートという手のかかるものを相手に奮闘している皆さんに、今回は思考も筋肉もほぐす手立てを身につけていただければと考えています。前半では自分の身体を動かして創作とは何かの一端を実感し、後半では現場の方の肉声に接して自分の言葉を掘り起こし、皆さんが今後事業を進める中で、最後まで自分の力になってくれるものを直感してみませんか。私たちはダンスアーティストとして、多世代の方々とその身体に出会っています。その中で、全身が笑顔になっている子どもや市民の方々に直面すると、こちらまで生命力で満たされるのを感じます。それは、事業を担当する皆さんとも共有できるはずの喜びだと信じています。膨大に去来する視覚情報やファストさに拍車のかかる時間感覚の只中にありながら、いつもどこかほぐれていて、「気の確かな」制作者がより増えることを願って。